

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Merlin proves a wizard investment オーストラリア

マーリン社が魔法の投資術を実証



無名のトラクタブランドを購入してから5年後、ノースビクトリアの農場主であるアラン・ケイ氏はマーリン社製トラクタに投資したことは正しかったと思っている。アラン&マーズ夫妻は息子のアンソニー氏とともに、シエパトン郊外にある砂質ローム土壌の広さ648haの農地を耕作している。マーリン社のピーター・ギヘラー氏と話した後にケイ氏は、同社製の出力63kW/85馬力のTDX85モデルを選んだ。今では運転時間が1400時間になった。

マーリン社の製品は、完成するまで時間をかけて堅実に開発されてきており、多くの農家は気づいていないかもしれないが、各トラクタの主要な部分はオーストラリアで部品加工、製造、組み立てられている。ギヘラー氏は、シャーシやフレーム、パーキンス社製エンジン、ホイールやタイヤから着手して、地元の厳しい条件に適応し、かつ顧客の要求を満足するように再装備するという。さらに、こう付け加える。

「当社ではファイバークラスのボンネットやガード部品、屋根をここで製作しており、キャビン全体の内装一式、エアコン、ラジオ、座席シート、油圧部品類や照明類も同様である。オーストラリア製部品の構成率は55%であり、顧客が目にすることができるものの中では、最もオーストラリアらしいトラクタであると我われは考えている。」

マーリン社のトラクタは、パーキンス製4気筒ターボディーゼルの出力63kW/85馬力、71kW/95馬力、78kW/105馬力と86kW/115馬力、および6気筒では93kW/125馬力、105kW/140馬力、120kW/160馬力と135kW/180馬力のエンジンが用意されている。小さい馬力のシリーズでは、カテゴリーII型リンケージおよび2セットの遠隔油圧操作用に60ℓ/分の油圧ポンプを装備している。大型トラクタの2機種では、カテゴリーIII型リンケージおよび80ℓ/分の油圧ポンプが装備されている。



ケイ氏のマーリン社製TDX85は大きなトラブルを起こすことなく、運転時間が1,400時間に達した。

Spoilt for tractor choice 南アフリカ

トラクタ選びにぜいたくな悩み



歴史的に見て、アフリカの農家が新しいトラクタを購入するとう場合、非常に限られた選択肢しかない。5つの主要ブランドのうちの1つから、しかも35馬力(小型)または50馬力(大型)のどちらかから選べるだけだった。対照的に、最近のクワズール・ナタール州ピーターマリッツバーグのロイヤル・シヨールでは、有望なトラクタのバイヤーは、ブランドの幅広さのみならず、一つのメーカーから同じ馬力帯で数多くのモデルが出品されるなど驚くほどの品揃えを目の当たりにした。

例えば、マッセイ・ファーガソンの現地ディーラーのブースでは、3つのMFモデルが販売され、MF6445、MF5445およびMF455Xtra型はすべて約95〜100馬力だった。異なった車体サイズ、様々な仕様レベルに幅広い価格帯、2輪駆動/4輪駆動、キャビンの有無などが提示され、顧客が混乱するのが目に見えるようであった。

しかしながら、最終的には選択肢が広がるということは歓迎されている。なぜならアフリカの顧客も同様に多様化しているからである。また、自分でトラクタを運転する農家や自分の農業機械を最大限に生かすべく運転者をトレーニングしている農家の数は増えており、より効率的かつ生産性の高いトラクタの需要も増加している。それでも全体の機能が洗練されていない低価格帯モデルへのニーズも未だに健在だ。



ブラジルで組み立てられたMF440Xtraとインドで製造されたMF290モデルは異なったスタイリングであるが、両方とも定格出力は80馬力である。



Line-pivot irrigator crosses the canal
オランダ

ラインピボット灌漑システムが用水路を渡る



パワー社の灌漑システムは走行範囲の終点に来ると、給水用の用水路を超える必要がある。車輪が斜めに仮設ブリッジを横断している。



オランダ北東部にあるトウェーデ・エクルールモント村に近い畑の全域にかけて、この数カ月間熱心に取り組んできた灌漑技術はすばらしいものであった。

オーストリアのパウアー社からバーテルト兄弟の耕作地の農作業向けに供給されたラインピボット灌漑装置は、長さ300mで、6セットの車輪を備え、各セット間の間隔は60mである。そのうえ、ラインの端には延長棒があり、さらに25m分をカバーし、別の端にある散水器がさらに25m分を散布する。その結果、ラインピボット装置は合計で350mの散水幅を有する。これは同装置が1600mの工程を移動するまでに56haの畑が水を受益することに相当する。

灌漑装置は終点まで移動するようになるのか？ パウアー社のユニットは効果的にセンターピボット式になり、すべてのバーが一つの車輪セットを中心に灌漑水を供給する用水路の反対側を通して半周回転する。この動きが完了するとラインピボット装置は再び畑に戻り、引き返して約120ha分を灌漑する。

When the mowing gets tough...
米国

草刈作業がつらいと感じたら……



約20年間、DR社のブラッシュモーターは、厳しい条件下で、頑固な低草木の茂み、背の高い雑草や太い若木を整備してきた。



耕作地を整備するのは決して楽しい仕事ではないが、DRパワー・エクイップメント社のPOWER-Lモデル自走式のブラッシュモーターは鎌をはるかに上回る。電気始動式の18馬力カワサキVツインエンジンを搭載し、この除草機は太さ75mmの若木や高さ1.8mの草を刈る能力がある。刃の重量は約2.7kgでほぼ毎時200マイルで回転し、高くても、密生していても、湿った草木までも刈り倒す。

作業者の一人であるミネソタ州ファーマーミントンのウィリアム・クーンズ氏はこう説明する。

「以前の干し草畑は手離してしまった。手持ちのロータリモーターで除草しようとしたが手に負えなかった。DR社製品は問題なく、湿り気を帯びたクローバーなどすべての草木を刈り取ることができた」

モーターのフレームは左右に旋回し、地面の輪郭に沿って上下し、表面を削り取るのを最小限にする。一方、狭いホイールベースと幅広タイヤにより優れたけん引力を実現している。

畑やフェンス沿いの背丈の高い草を刈るためにこの装置を初めに購入したバーモント州リンカーンのバーン・テリー氏はこう話す。

「このブラッシュモーターは野外の道を整備するあらゆる作業に有効で、ここに生えているすべての雑草をも本当によく刈り取ってくれる」